

- 機能異常ワークショップ2003、第6回肝臓生物学研究会合同年会、平成15年7月17日—18日、札幌。
483. 高橋 啓、大原関利章、鈴木和男、直江史郎：マウス系統的血管炎誘発モデルにおける動脈病変の免疫組織学的検討。第5回オステオポンチン研究会、生体防御機能異常ワークショップ2003、第6回肝臓生物学研究会合同年会、平成15年7月17日—18日、札幌。
484. 武曾恵理、猪原登志子、小野孝彦、野垣文昭、北 徹、鈴木和男：ANCA関連腎炎・血管炎に対するヒト免疫グロブリン (IVIg) 治療効果の検討。第5回オステオポンチン研究会、生体防御機能異常ワークショップ2003、第6回肝臓生物学研究会合同年会、平成15年7月17日—18日、札幌。
485. 原田敏江、三浦典子、安達禎之、鈴木和男、大野尚仁：真菌多糖の *in vitro* における IFN- γ 産生増強作用の検討。第5回オステオポンチン研究会、生体防御機能異常ワークショップ2003、第6回肝臓生物学研究会合同年会、平成15年7月17日—18日、札幌。
486. 長谷川明洋、長尾朋和、村田 薫、稲見真倫、鈴木和男、中山俊憲：関節炎および血管炎の発症における CD69 分子の役割。第5回オステオポンチン研究会、生体防御機能異常ワークショップ2003、第6回肝臓生物学研究会合同年会、平成15年7月17日—18日、札幌。
487. 越尾 修、長尾朋和、石田-大川原明子、馬淵綾子、鈴木和男：血管炎への好中球の関与と炎症性サイトカインによるヒト血管内皮細胞のアポトーシス誘導シグナルの検討。第5回オステオポンチン研究会、生体防御機能異常ワークショップ2003、第6回肝臓生物学研究会合同年会、平成15年7月17日—18日、札幌。
488. 鈴木和男：レビュートーク：血管炎に関与するインターフェロン γ 。第68回日本インターフェロン・サイトカイン学会学術集会、平成15年7月23—24日、東京。
489. 三浦典子、新郷裕子、大原関利章、高橋 啓、直江史郎、大川原明子、鈴木和男、大野尚仁：Candida albicans 由来可溶性菌体外多糖 CAWS の血管炎誘発活性。第68回日本インターフェロン・サイトカイン学会学術集会、平成15年7月23—24日、東京。
490. 原田敏江、三浦典子、安達禎之、栗原和記、Keiko Ozato、鈴木和男、大野尚仁：真菌多糖の樹状細胞分化の調節におよぼす影響—IRF-8 欠損マウスの解析から—。第68回日本インターフェロン・サイトカイン学会学術集会、平成15年7月23—24日、東京。
491. 越尾 修、長尾朋和、石田-大川原明子、馬淵綾子、鈴木和男：血管炎に関与する TNF α および IL-1 β によるヒト血管内皮細胞のアポトーシス誘導シグナルの検討。第68回日本インターフェロン・サイトカイン学会学術集会、平成15年7月23—24日、東京。
492. 鈴木和男、大川原明子、長尾朋和、村山 研、亀岡洋祐、大原関利章、高橋 啓、直江史郎、大野尚仁、三浦典子、武曾恵理、猪原登志子、小野孝彦：血管炎発症における活性化好中球の関与。第14回日本生体防御学会、平成15年7月31日—8月2日、京都。
493. 鈴木和男、松岡俊行、栗原和記、佐々木健夫、Keiko Ozato：血管炎に関与する異常好中球：IRF-8 ノックアウトマウスによる解析。第14回日本生体防御学会、平成15年7月31日—8月2日、京都。
494. 鈴木和男、大川原明子、長尾朋和、村山 研、亀岡洋祐、大原関利章、高橋 啓、直江史郎、大野尚仁、三浦典子、武曾恵理、猪原登志子、小野孝彦：血管炎発症における活性化好中球の関与。第14回日本生体防御学会、平成15年7月31日—8月2日、京都。
495. 鈴木和男、南谷晴之、山本健二、眞島利和：公開シンポジウム「ナノとバイオの融合 学理構築、産業基盤形成」開催から学ぶ。日本バイオイメージング学会と化学工学会の連携による「ナノとバイオの融合学理構築、産業基盤形成」シンポジウム、平成15年、9月10—11日、松島。
496. 鈴木和男、長尾朋和、長谷川明洋、中山俊憲、大野尚仁、三浦典子、越尾 修、馬淵綾子、南谷晴之：新しいイメージング技術へ向けて—IVI 技術 (in-vivo imaging) —。日本バイオイメージング学会と化学工学会の連携による「ナノ

- とバイオの融合学理構築、産業基盤形成」シンポジウム、平成15年、9月10-11日、松島。
497. 大川原明子、猪原登志子、武曾恵理、小野孝彦、雑賀寛、根本久一、鈴木和男：糸球体腎炎の発症、進行における好中球活性化の役割- SCG/Kj マウスを用いた解析。第15回腎とフリーラジカル研究会、平成15年9月20日、東京。
498. 越尾修、長尾朋和、大川原明子、馬淵綾子、鈴木和男：The contribution of PMN and the degranulated substances to the activation of p38 MAPK and Caspase 8 in the introduction of Apoptosis of human Endothelial cell. 第76回日本生化学会大会、平成15年10月16日-18日、横浜。
499. 鈴木和男、長尾朋和、越尾 修、馬淵綾子、大野尚仁、高橋 啓、南谷晴之、直江史郎：In-vivo イメージングによる腎微小血管傷害の解析。第8回血管炎研究会、平成15年10月18日、秋田。
500. 三浦典子、三川浩輝、安達禎之、大川原明子、大原関利章、高橋 啓、直江史郎、鈴木和男、大野尚仁：Candida albicans 菌体外多糖画分 CAWS の DBA/2 マウスに対する血管炎誘発活性と反応性の解析。第9回 MPO 研究会、平成15年10月24日-25日、八王子。
501. 鈴木和男：細胞・組織障害のメカニズム解析-血管炎を分子とバイオイメージングで解析する-。第12回日本バイオイメージング学会学術集会、平成15年10月29日-31日、横浜。
502. 長尾朋和、長谷川明洋、越尾 修、馬淵綾子、南谷晴之、中山俊憲、鈴木和男：活性化誘導の血小板血栓形成における CD69 の役割。第12回日本バイオイメージング学会学術集会、平成15年10月29日-31日、横浜。
503. 大川原明子、三浦典子、大野尚仁、鈴木和男：C. albicans 由来物質 CAWS によって誘起されるマウス冠状動脈炎発症における活性化好中球の役割について。第33回 日本免疫学会総会、平成15年12月8日-10日、博多。
504. 村田薫、稲見真倫、長谷川明洋、久保秀一、宮本健志、木村元子、山下政克、長尾朋和、鈴木和男、谷口克、中山俊憲：CD69 ノックアウトマウスにおける抗 type II コラーゲン抗体誘導性関節炎発症の抑制。第33回 日本免疫学会総会、平成15年12月8日-10日、博多。
505. 長尾朋和、長谷川明洋、越尾 修、馬淵綾子、南谷晴之、中山俊憲、鈴木和男：活性化誘導性の血小板血栓形成における CD69 の役割。第33回 日本免疫学会総会、平成15年12月8日-10日、博多。
506. 村山 研、長尾朋和、越尾 修、長谷川明洋、中山俊憲、新井孝夫、鈴木和男：活性化好中球における CD69 分子の表面局在。第33回 日本免疫学会総会、平成15年12月8日-10日、博多。
507. 三川浩輝、三浦典子、安達禎之、大川原明子、大原関利章、高橋啓、直江史郎、鈴木和男、大野尚仁：Candida albicans 由来の血管炎誘発多糖画分 CAWS に対する DBA/2 マウスの反応性の解析。第33回 日本免疫学会総会、平成15年12月8日-10日、博多。
508. 濱野慶朋、広瀬幸子、鈴木和男：MPO-ANCA 関連半月体形成性腎炎自然発症モデル SCG/Kj マウスの遺伝的解析。第33回 日本免疫学会総会、平成15年12月8日-10日、博多。
509. 武曾恵理、大川原明子、鈴木和男：遺伝的ネフローゼ腎炎モデルマウス ICGN の好中球活性化の解析。第33回 日本免疫学会総会、平成15年12月8日-10日、博多。
510. 鈴木和男：Neutrophil functions of patients with MPO-ANCA-related vasculitis. 第33回 日本免疫学会総会、平成15年12月8日-10日、博多。
511. Aratani, Y., Kura, F., Suzuki, K., and Koyama, H. : In vivo role of myeloperoxidase for the host defense against fungal and bacterial infections. 第33回 日本免疫学会総会、平成15年12月8日-10日、博多。
512. 荒谷康昭、倉 文明、鈴木和男、小山秀機：Cryptococcus neoformans 感染に対する生体防御におけるミエロペルオキシダーゼの役割。第33回 日本免疫学会総会、平成15年12月8日-10日、博多。

513. 三川浩輝, 三浦典子, 安達禎之, 大川原明子, 大原関利章, 高橋 啓, 直江史郎, 鈴木和男, 大野尚仁: *Candida albicans* 由来菌体外多糖画分 CAWS による致死的血管炎誘発メカニズムの解析. 第33回 日本免疫学会総会、平成15年12月8日—10日、博多.
514. 亀岡 洋祐, Persad Amanda, 橋本 雄之, 鈴木 和男: ミエロペルオキシダーゼの第8ヘリックスにおける日本人集団の変異頻度. 第26回 日本分子生物学会年会、平成15年12月10日—13日、神戸.
515. 鈴木和男: 「ガンマグロブリン: 血管炎治療のための人工ガンマグロブリン」4) 発症機構とガンマグロブリン開発. 公開シンポジウム「ナノとバイオイメージングの融合と医用への展開」— 安全な医薬・治療法へのアプローチ —、平成16年1月9日、東京.
516. Ishida-Okawara, A., Ito-Ihara, T., Muso, T., Ono, T., Saiga, K., Nemoto, H. and Suzuki, K.: Role of Activated Neutrophils in Spontaneously Crescentic Glomerulonephritis Forming (SCG/Kj) Mice. 10th International Vasculitis and ANCA Workshop, April 25-28, 2002, Cleveland, USA.
517. Suzuki, K., Matsuo, T., Hashimoto, Y., Ishida-Okawara, A., Matsuo, K., Iwasaki, T., Kajiwara, H., Arai, T. and Ozato, K.: Contribution of abnormal differentiation and function of neutrophils to MPO-ANCA production: Analysis of ICSBP-KO mice. 10th International Vasculitis and ANCA Workshop, April 25-28, 2002, Cleveland, USA.
518. Ito-Ihara, T., Nogaki, F., Ono, T., Suzuki, K. and Muso, E.: Intravenous immunoglobulin (IVIG) treatment of MPO-ANCA-related microscopic polyangiitis. 10th International Vasculitis and ANCA Workshop. April 25-28, 2002, Cleveland, USA.
519. Ito-Ihara, T., Nogaki, F., Ono, T., Suzuki, K. and Muso, E.: Intravenous immunoglobulin (IVIG) treatment on patients with anti-neutrophil cytoplasmic antibody (ANCA)-related glomerulonephritis. 26th International Congress of Internal Medicine, May 26-30, 2002, Kyoto, Japan.
520. Ito-Ihara, T., Ishida-Okawara, A., Muso, E., Ono, T., Saiga, K. and Suzuki, K.: Role of Activated Neutrophil in Spontaneously Crescentic Glomerulonephritis Forming (SCG/Kj) Mice. 35th Annual Meeting of American Society of Nephrology, November 1-4, 2002, Philadelphia, PA, USA.
521. Suzuki, K.: Contribution of activated neutrophils in vasculitis development. Seminar in Department of Medicine, Addenbrooke's Hospital, November 27, 2002, Cambridge, UK.
522. Kazuo, Suzuki: Approach to mechanisms of vasculitis in kidney: Contribution of MPO-ANCA and neutrophils. International Progressive Renal Diseases Forum, February 8, 2003, Naogya, Japan.
523. 大川原明子, 猪原登志子, 武曾恵理, 小野孝彦, 鈴木和男: 自然発症半月体形成腎炎 SCG/Kj マウスにおける活性化好中球の役割. 第3回京都腎臓免疫研究会、平成14年5月11日、京都
524. 猪原登志子, 野垣文昭, 小野孝彦, 鈴木和男, 武曾恵理: 抗好中球抗体 ANCA 関連顕腎炎患者における IVIG 治療. 第3回京都腎臓免疫研究会、平成14年5月11日、京都.
525. 猪原登志子, 大川原明子, 鈴木和男, 小野孝彦, 武曾恵理: SCG/Kj mice における腎組織学的病変と好中球機能との関係に関する検討. 第45回日本腎臓病学会総会、平成14年5月23—25日、大阪.
526. 鈴木和男: 血液成分の新展開: 血管炎治療用の人工グロブリン開発をめざして. 第9回日本血液代替物学会年次大会、平成14年9月4—5日、熊本.
527. 大原関利章, 亀岡洋祐, 倉 文明, 直江史郎, 高橋 啓, 鈴木和男: 川崎病類似マウス冠状動脈炎モデルにおける血管炎抑制遺伝子の染色体マッピング. 第22回日本川崎病研究会、平成14年9月27—28日、北九州.
528. 越尾 修, 長尾朋和, 馬淵綾子, 鈴木和男: 血管内皮細胞傷害時の apoptosis における signal 伝達と Insulin 効果. 第75回 日本生化学会大会、平成14年

- 10月15-18日、京都。
529. 大川原明子, 大原関利章, 高橋 啓, 三浦典子, 大野尚仁, 荒谷康昭, 小山秀機, Nobuyo Maeda, 直江 史郎, 鈴木和男: カンジダ菌体由来物質誘導の血管炎モデルマウスにおける好中球の役割. 第75回 日本生化学会大会、平成14年10月15-18日、京都。
530. 荒谷康昭, 倉 文明, 渡辺治雄, 赤川久義, 高野幸枝, 鈴木和男, Nobuyo Maeda, Mary C. Dinauer, 小山秀機: ミエロペルオキシダーゼ欠損マウスの生体防御能異常. 第75回 日本生化学会大会、平成14年10月15-18日、京都。
531. 荒谷康昭, 倉 文明, 渡辺治雄, 赤川久義, 高野幸枝, 鈴木和男, Mary C. Dinauer, Nobuyo Maeda, 小山秀機: MPO欠損マウスとgp91phox欠損マウスのカンジダ菌に対する感染防御能の比較. 第8回MPO研究会、平成14年10月18-19日、宮崎。
532. 荒谷康昭, 倉 文明, 渡辺治雄, 赤川久義, 高野幸枝, 鈴木和男, Mary C. Dinauer, Nobuyo Maeda, 小山秀機: MPO欠損マウスとgp91phox欠損マウスのカンジダ菌に対する感染防御能の比較. 第8回MPO研究会、平成14年10月18-19日、宮崎。
533. 長尾朋和, 越尾 修, 馬淵綾子, 大野尚仁, 高橋 啓, 南谷晴之, 鈴木和男: . 第8回MPO研究会、平成14年10月18-19日、宮崎。
534. 武曾恵理, 猪原登志子, 小野孝彦, 北徹, 鈴木和男: ANCA 関連腎炎・血管炎に対するヒト免疫グロブリン (IVIg) 治療効果の検討. 第8回MPO研究会、平成14年10月18-19日、宮崎。
535. 越尾 修, 長尾 朋和, 石田-大川原 明子, 馬淵 綾子, 鈴木 和男: 血管内皮細胞のApoptosis誘導におけるp38 MAPK と Caspase 8 の活性化に対する好中球およびIL-1_βの関与. 第8回MPO研究会、平成14年10月18-19日、宮崎。
536. 大野尚仁, 三浦典子, 新郷裕子, 安達禎之, 大原関利章, 高橋 啓, 直江史郎, 大川原明子, 鈴木和男: 病原性真菌 *Candida albicans* 培養上清由来のmannoprotein-glucan complex, CAWS, による冠状動脈炎の発症と機序の解析. 第8回MPO研究会、平成14年10月18-19日、宮崎。
537. 大川原明子, 大原関利章, 高橋 啓, 三浦典子, 大野尚仁, 荒谷康昭, 小山秀機, Maeda Nobuyo, 直江史郎, 鈴木和男: 血管炎発症への活性化好中球の関与-カンジダ菌体由来物質 CAWS によって誘導される血管炎モデルマウスを用いた解析, 第8回MPO研究会、平成14年10月18-19日、宮崎。
538. 大原関利章, 大野尚仁, 大川原明子, 直江史郎, 鈴木和男, 高橋 啓: *Candida albicans* 菌体抽出物を用いた川崎病類似マウス動脈炎モデル. 第8回MPO研究会、平成14年10月18-19日、宮崎。
539. Persad A, 亀岡洋祐, 鈴木和男: MPO完全欠損患者で見つかったARG499CYS変異. 第8回MPO研究会、平成14年10月18-19日、宮崎。
540. 亀岡洋祐, Persad A, 鈴木和男: MPO遺伝子エキソン9における遺伝子変異. 第8回MPO研究会、平成14年10月18-19日、宮崎。
541. 長尾朋和, 越尾 修, 馬淵綾子, 大野尚仁, 高橋 啓, 南谷晴之, 鈴木和男: 免疫異常による腎臓血管傷害のイメージング. 第11回日本バイオイメージング学会、平成14年10月30-11月1日、名古屋。
542. 中山俊憲, 長尾朋和, 村田 薫, 稲見真倫, 鈴木和男: 光化学反応による血小板血栓形成のイメージングを用いたCD69機能の解析. 第11回日本バイオイメージング学会、平成14年10月30-11月1日、名古屋。
543. 大原関利章, 亀岡洋祐, 横内 幸, 若山 恵, 鈴木和男, 直江史郎, 高橋 啓: カンジダ菌体抽出物誘導の川崎病類似マウス動脈炎モデルにおける冠状動脈炎関連遺伝子の染色体マッピング. 第43回日本脈管学会総会、平成14年11月7-9日、東京。
544. 奥村彰規, 斉藤 武, 大川原明子, 大谷功, 金山喜一, 浅野雅秀, 岩倉洋一郎, 鈴木和男, 山越 智: 関節炎モデルを用いたLECT2の役割解析. 生体防御機能異常ワークショップ-2002/第5回肝臓生物学研究会、平成14年11月8-9日、京都。
545. 越尾 修, 長尾 朋和, 石田-大川原明子,

- 馬淵綾子、鈴木和男：血管内皮細胞の Apoptosis 誘導における p38 MAP kinase と Caspase 8 の活性化に対する好中球および Cytokine 類の関与。生体防御機能異常ワークショップ-2002/第5回肝臓生物学研究会、平成14年1月8-9日、京都。
546. 鈴木和男：公開シンポジウム-血管炎の発症機構解析とその治療：IVIG 治療をめぐって。血管炎の発症機構の解析：ANCA 血管炎。生体防御機能異常ワークショップ-2002/第5回肝臓生物学研究会、平成14年11月8-9日、京都。
547. 長尾朋和：公開シンポジウム-血管炎の発症機構解析とその治療：IVIG 治療をめぐって。血管炎の発症機構の解析：腎臓血管傷害のイメージング。生体防御機能異常ワークショップ-2002/第5回肝臓生物学研究会、平成14年11月8-9日、京都。
548. 猪原登志子、小野孝彦、北 徹、鈴木和男、武曾恵理：公開シンポジウム-血管炎の発症機構解析とその治療：IVIG 治療をめぐって。生体防御機能異常ワークショップ-2002/第5回肝臓生物学研究会、平成14年11月8-9日、京都。
549. 新郷裕子、三浦典子、安達禎之、大野尚仁、大川原明子、鈴木和男、大原関利章、高橋 啓、直江史郎：Candida albicans 菌体外多糖 CAWS の血管炎誘発活性におけるマウス系統差とその病態形成への関与の検討。第32回日本免疫学会総会、平成14年12月4-6日、東京。
550. 荒谷康昭、倉 文明、鈴木和男、小山秀機：Candida albicans 感染に対する生体防御におけるミエロペルオキシダーゼと NADPH オキシダーゼの重要性の比較。第32回日本免疫学会総会、平成14年12月4-6日、東京。
551. 越尾 修、長尾 朋和、石田-大川原 明子、馬淵 綾子、鈴木 和男：血管内皮細胞の Apoptosis 誘導における p38 MAPK と Caspase 8 の活性化に対する好中球および IL-1_β の関与。第22回日本分子生物学会、平成14年12月12-15日、横浜。
552. Persad A, Kameoka Y, Kanda S, Suzuki K： Identification of a non-synonymous mutation in a patient with complete MPO deficiency. 第22回日本分子生物学会、平成14年12月12-15日、横浜。
553. 三浦典子、新郷裕子、安達禎之、大川原明子、鈴木和男、大原関利章、高橋啓、直江史郎、大野尚仁：Candida albicans 菌体外多糖 CAWS の血管炎誘発活性に関する検討。日本薬学会第123年会、平成15年3月27-29日、長崎市。
554. 中村洋、田中道明、加藤智啓、西岡久寿樹：Hyaluronate の軟骨細胞の MMP-1 抑制作用とそのメカニズム。第3回 Biomatrix Forum 研究発表会 パレスホテル（東京） 1/17, 2004
555. 加藤智啓：リウマチ性疾患のプロテオミクス。ハイテック・リサーチ・センターフォーラム2004 聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター 1/20, 2004
556. 唐澤里江、関根太一、大岡正道、三井健一、貫名信行、西村裕之、尾崎承一、西岡久寿樹、加藤智啓：血管炎における抗内皮細胞抗体の対応抗原に関する検討：ペルオキシレドキシニン2に対する自己抗体。平成15年度第2回厚生労働科学研究費補助金班会議 難治性疾患克服研究事業「難治性血管炎に関する調査研究」 都市センターホテル（東京） 2/13, 2004
557. 増子佳世、加藤智啓：酸化ストレスによる蛋白抗原性の変化について：プロテオミクスによる包括的解析。平成15年度班会議 厚生労働省難治性疾患克服研究事業「自己免疫疾患に関する調査研究」 札幌市教育文化会館（北海道） 3/5-6, 2004
558. 加藤智啓：SART mouse: Novel animal model of FMS. 線維筋痛症国際公開シンポジウム(International Symposium of Fibromyalgia) 都市センターホテル（東京） 3/22, 2004
559. 松尾光祐、中村洋、野寄浩司、斎藤知行、西岡久寿樹、加藤智啓：関節リウマチおよび変形性関節症における滑膜細胞のプロテオーム解析。第48回日本リウマチ学会総会・学術集会 岡山コンベンションセンター/ホテルグランヴィア岡山（岡山） 4/15-17, 2004
560. 中村洋、加藤智啓、増子佳世、遊道和雄、西岡久寿樹：軟骨細胞の MMP、

- chemokine 産生および apoptosis に対する Celecoxib の影響. 第 48 回日本リウマチ学会総会・学術集会 岡山コンベンションセンター/ホテルグランヴィア岡山 (岡山) 4/15-17, 2004
561. 高田智子、中村浩士、松崎益徳、加藤智啓、西岡久寿樹: ウイルス性心筋炎再感染モデルにおける心筋自己抗原の同定. 第 48 回日本リウマチ学会総会・学術集会 岡山コンベンションセンター/ホテルグランヴィア岡山 (岡山) 4/15-17, 2004
562. 加藤智啓、中村 洋、山田秀裕、尾崎承一、西岡久寿樹: 関節リウマチにおけるプロテオーム診断の可能性. 第 48 回日本リウマチ学会総会・学術集会 岡山コンベンションセンター/ホテルグランヴィア岡山 (岡山) 4/15-17, 2004
563. 中村 洋、加藤智啓、田中道明、増子佳世、遊道和雄、西岡久寿樹: 高分子ヒアルロン酸の軟骨細胞 MAPK シグナル伝達に対する作用. 第 48 回日本リウマチ学会総会・学術集会 岡山コンベンションセンター/ホテルグランヴィア岡山 (岡山) 4/15-17, 2004
564. 唐澤里江、関根太一、大岡正道、西村裕之、尾崎承一、西岡久寿樹、加藤智啓: 血管炎における抗内皮細胞抗体の対応抗原に対する検討. 第 48 回日本リウマチ学会総会・学術集会 岡山コンベンションセンター/ホテルグランヴィア岡山 (岡山) 4/15-17, 2004
565. Shan ZZ, 増子佳世、中村 洋、加藤智啓、西岡久寿樹: A potential role of 15-deoxy- Δ 12,14-prostaglandin J2 in apoptosis of human articular chondrocytes. 第 48 回日本リウマチ学会総会・学術集会 岡山 (岡山コンベンションセンター/ホテルグランヴィア岡山) 4/15-17, 2004
566. Xiang Y, Sekine T, Nakamura H, Nishioka K, Kato T: Fibulin-4 is a component of cartilage and a target of autoantibodies in osteoarthritis and rheumatoid arthritis. 第 48 回日本リウマチ学会総会・学術集会 岡山コンベンションセンター/ホテルグランヴィア岡山 (岡山) 4/15-17, 2004
567. 芝川温之、西岡久寿樹、増子佳世、加藤智啓、遊道和雄、中村 洋: 変形性関節症における軟骨下骨髄組織による軟骨破壊機構. 第 48 回日本リウマチ学会総会・学術集会 岡山コンベンションセンター/ホテルグランヴィア岡山 (岡山) 4/15-17, 2004
568. Kato T, Karasawa R, Ooka S, Sekine T, Nishimura H, Nukina N, Mitsui K, Ozaki S, Nishioka K.: Comprehensive analysis of targets of anti-endothelial cell antibodies. 第 2 回日本ヒトプロテオーム学会 (Japan Human Proteomics 2004 / The 2nd Annual Meeting of JHUPPO) 板橋区立文化会館 5/19-20, 2004
569. 加藤智啓: 変形性関節症と自己免疫: プロテオミクスによる OA と RA の自己免疫プロファイルの検索. 第 22 回日本骨代謝学会 グランキューブ大阪 8/4-7, 2004
570. 加藤智啓: リウマチ性疾患におけるプロテオミクス (Proteomics in Rheumatic Diseases). 第 3 回リウマチ膠原病・よつやセミナー 主婦会館プラザエフ (東京) 9/4, 2004
571. Du H, Kato T, Xiang Y, Bao C-D, Wang X-D, Masuko-Hongo K, Nakamura H, Chen S-L, Nishioka K.: Prevalance of autoantibodies against cartilage intermediate layer protein (CILP), YKL-39, osteopontin, cyclic citrullinated peptide (CCP) in patients with knee osteoarthritis of early but not of advanced stage: an evidence for the presence of a variety of autoimmunity in OA patients. The 11th Asia Pacific League of Associations for Rheumatology Congress (APLAR) International Convention Center (ICC), Jeju, Korea 9/11-15, 2004
572. Nakamura H, Shibakawa A, Masuko-Hongo K, Yudoh K, Kato T, Beppu M, Nishioka K.: Reparative and destructive features of pannus-like soft tissue on articular cartilage of osteoarthritis. The 11th Asia Pacific League of Associations for Rheumatology Congress (APLAR) International Convention Center (ICC), Jeju, Korea 9/11-15, 2004
573. Yudoh K, Dai SM, Nakamura H, Masuko-Hongo K, Kato T, Nishioka K.: Proinflammatory cytokine IL-18 stimulates T-cell mediated osteoclastogenesis through the Up-regulation of RANKL and soluble

- RANKL in T cells. The 11th Asia Pacific League of Associations for Rheumatology Congress (APLAR) International Convention Center (ICC), Jeju, Korea 9/11-15, 2004
574. Ozaki S, Karasawa R, Ooka S, Sekine T, Nishimura H, Mitsui K, Nukina N, Nishioka K, Kato T.: Peroxiredoxin 2: A novel autoantigen for anti-endothelial cell antibodies (AECA) identified by proteomic surveillance.. The 11th Asia Pacific League of Associations for Rheumatology Congress (APLAR) International Convention Center (ICC), Jeju, Korea 9/11-15, 2004
575. Masuko-Hongo K, Murata M, Nakamura H, Yudoh K, Kato T., Nishioka K.: Mast cell-derived serine protease tryptase induces production of vascular endothelial growth factor by chondrocytes via protease-activated receptor-2: A possible role in the OA pathogenesis. The 11th Asia Pacific League of Associations for Rheumatology Congress (APLAR) International Convention Center (ICC), Jeju, Korea 9/11-15, 2004
576. Xiang Y, Sekine T, Nakamura H, Masuko-Hongo K, Yudoh K, Nishioka K, Kato T.: Expression of the fibulin family and its regulation by IL-1 β , TNF- α and TGF- β in osteoarthritic articular chondrocytes. The 11th Asia Pacific League of Associations for Rheumatology Congress (APLAR) International Convention Center (ICC), Jeju, Korea 9/11-15, 2004
577. Xiang Y, Sekine T, Nakamura H, Masuko-Hongo K, Yudoh K, Nishioka K, Kato T.: PAR-2 expressed in osteoarthritic articular chondrocytes is regulated by IL-1 β /TNF- α and TGF- β . The 11th Asia Pacific League of Associations for Rheumatology Congress (APLAR) International Convention Center (ICC), Jeju, Korea 9/11-15, 2004
578. Nakamura H, Shibakawa A, Masuko-Hongo K, Yudoh K, Kato T., Beppu M, Nishioka K.: Subchondral pit formatin and invading bone marrow cells are involved in the articular destruction in osteoarthritis and rheumatoid arthritis expressig cytokines and MMPs. The 11th Asia Pacific League of Associations for Rheumatology Congress (APLAR) International Convention Center (ICC), Jeju, Korea 9/11-15, 2004
579. Sekine T, Nakamura H, Masuko-Hongo K, Yudoh K, Nishioka K, Kato T.: Comprehensive analysis of proteins released from chondrocytes by IL-1 β . American College of Rheumatology, 68th Annual Scientific Meeting San Antonio, Texas 10/16-21, 2004
580. Xiang Y, Sekine T, Nakamura H, Masuko-Hongo K, Yudoh K, Nishioka K, Kato T.: PAR-2 expressed in osteoarthritic articular chondrocytes is regulated by IL-1 beta, TNF-alpha and TGF-beta. American College of Rheumatology, 68th Annual Scientific Meeting San Antonio, Texas 10/16-21, 2004
581. Matsuo K, Nakamura H, Masuko-Hongo K, Yudoh K, Noyori K, Saito T, Nishioka K, Kato T.: Surveillance of citrullinated autoantigens of synovium in rheumatoid arthritis. American College of Rheumatology, 68th Annual Scientific Meeting San Antonio, Texas 10/16-21, 2004
582. Nakamura H, Shibakawa A, Beppu M, Masuko-Hongo K, Yudoh K, Kato T., Nishioka K.: Subchondral pit formatin and invading bone marrow cells are involved in the articular destruction in osteoarthritis and rheumatoid arthritis expressig cytokines and MMPs. American College of Rheumatology, 68th Annual Scientific Meeting San Antonio, Texas 10/16-21, 2004
583. Karasawa R, Ooka S, Sekine T, Nishimura H, Nukina N, Mitsui K, Ozaki S, Nishioka K, Kato T.: Targets of anti-endothelial cell antibodies in patients with systemic vasculitis: identification by the proteomic approach. American College of Rheumatology, 68th Annual Scientific Meeting San Antonio, Texas 10/16-21, 2004
584. Yudoh K, Dai SM, Shan ZZ, Nakamura H, Masuko-Hongo K, Kato T., Matsuno H, Nishioka K.: Potential implication of catabolic stress-induced chondrocyte senescence in the patogenesis of OA:

- articular cartilage aging is mediated by stress-induced expression of caveolin-1 in OA chondrocytes. American College of Rheumatology, 68th Annual Scientific Meeting San Antonio, Texas 10/16-21, 2004
585. Yudoh K, Trieu vN, Nakamura H, Masuko-Hongo K, Kato T, Matsuno H, Nishioka K.: Role of hypoxia-inducible factor (HIF)-1 α in chondrocyte viability and survival in OA cartilage. American College of Rheumatology, 68th Annual Scientific Meeting San Antonio, Texas 10/16-21, 2004
586. Masuko-Hongo K, Murata M, Nakamura H, Yudoh K, Kato T, Nishioka K.: Mast cell-derived serine protease tryptase induces production of vascular endothelial growth factor by chondrocytes via protease-activated receptor-2: A possible role in the OA pathogenesis. American College of Rheumatology, 68th Annual Scientific Meeting San Antonio, Texas 10/16-21, 2004
587. Nishioka M, Fukuda K, Nakamura H, Kato T, Usui C, Arai H, Nishioka K.: Potential effect of neurotrophin (R) for pain with fibromyalgia. American College of Rheumatology, 68th Annual Scientific Meeting San Antonio, Texas 10/16-21, 2004
588. Kato T, Nakamura H, Masuko-Hongo K, Yudoh K, Nishioka K.: Proteome analysis of peripheral B cells in rheumatoid arthritis. American College of Rheumatology, 68th Annual Scientific Meeting San Antonio, Texas 10/16-21, 2004
589. Nakano H, Ooka S, Matsuda T, Sekine T, Nishioka K, Ozaki S, Kato T. Identification of cofilin-1 as an autoantigen in patients with Behcet's disease by a proteomic approach. 11th International Congress of Behcet's Disease. 2004.10
590. Matsuo K, Nakamura H, Masuko-Hongo K, Yudoh K, Noyori K, Saito T, Nishioka K, Kato T: The phosphoproteome profile of synoviocytes in rheumatoid arthritis is distinct from that in osteoarthritis. American College of Rheumatology, 68th Annual Scientific Meeting San Antonio, Texas 10/16-21, 2004
591. 加藤智啓、中村洋、増子佳世、遊道和雄、山田秀裕、尾崎承一、西岡久寿樹 関節リウマチにおける末梢血B細胞プロテオーム 第34回日本免疫学会 2004. 12.
592. 唐澤里江、大岡正道、関根太一、西村裕之、尾崎承一、西岡久寿樹、加藤智啓. 全身性血管炎患者における抗内皮細胞抗体の対応抗原同定-プロテオミクスの手法を用いて- 第34回日本免疫学会 2004. 12.
593. 加藤智啓、大岡正道、関根太一、尾崎承一、西村裕之、三井健一、西岡久寿樹: プロテオミクスを用いた抗内皮細胞抗体の対応抗原の網羅的同定と解析. 第33回日本免疫学会総会 福岡国際会議場、マリンメッセ福岡 (福岡) 12/8-10, 2003
595. Kato T, Dai S-M, Yao Z, Watanabe A, Ooka S, Kurokawa MS, Nakamura H, Matsui T, Nishioka K.: Inhibition of Osteoclastogenesis by Autoantibodies to RANK in vitro. American College of Rheumatology, 67th Annual Scientific Meeting Orlando, Florida 10/23-28, 2003
595. Shibakawa A, Nishioka K, Kato T, Masuko K, Yudo K, Nakamura H.: A Novel Destructive Mechanism of Osteoarthritis Cartilage Mediated by Soft Tissue From Surface and From Bone Marrow. American College of Rheumatology, 67th Annual Scientific Meeting Orlando, Florida 10/23-28, 2003
596. Xiang Y, Sekine T, Nakamura H, Imajoh-Ohmi S, Fukuda H, Nishioka K, Kato T.: Fibulin-4 is a Component of Cartilage and a Target of Autoantibodies in Osteoarthritis and Rheumatoid Arthritis. American College of Rheumatology, 67th Annual Scientific Meeting Orlando, Florida 10/23-28, 2003
597. Xiang Y, Sekine T, Nakamura H, Imajoh-Ohmi S, Fukuda H, Nishioka K, Kato T.: Proteomic Surveillance of Autoimmunity in Osteoarthritis: Identification of Triosephosphate Isomerase as an Autoantigen in Patients with Osteoarthritis. American College of Rheumatology, 67th Annual Scientific Meeting Orlando, Florida 10/23-28, 2003
598. Karasawa R, Sekine T, Ooka S, Nishimura

- H, Nukina N, Mitsui K, Ozaki S, Nishioka K, Kato T: Targets of Anti-endothelial Cell Antibodies in Patients with Systemic Vasculitis: Identification by the Proteomic Approach. American College of Rheumatology, 67th Annual Scientific Meeting Orlando, Florida 10/23-28, 2003
599. 中村洋、田中道明、増子佳代、加藤智啓、西岡久寿樹: 変形性関節症における免疫機構 - 軟骨細胞と T 細胞の相互作用について - . 第 18 回日本整形外科学会基礎学術集会 北九州国際会議場 (北九州市) 10/16-17, 2003
600. Kato T, Xiang Y, Sekine T, Nakamura H, Imajoh-Ohmi S, Fukuda H, Nishioka K.: Proteomic surveillance of autoimmunity in osteoarthritis. 3rd World Congress of the Global Arthritis Research Network (GARN) Miyazaki, Japan (Summit Hall at Sheraton Resorts) 9/14-17, 2003
601. Masuko-Hongo K, Shang ZZ, Kato T, Nakamura H, Nishioka K.: 15-deoxy-delta 12,14-prostaglandin J2 induces apoptosis in human articular chondrocytes. 3rd World Congress of the Global Arthritis Research Network (GARN) Miyazaki, Japan (Summit Hall at Sheraton Resorts) 9/14-17, 2003
602. Nakamura H, Kato T, Masuko-Hongo K, Tanaka M, Shibakawa A, Nishioka K.: T cell-chondrocyte interaction in the pathogenesis of osteoarthritis. 3rd World Congress of the Global Arthritis Research Network (GARN) Miyazaki, Japan (Summit Hall at Sheraton Resorts) 9/14-17, 2003
603. Nakamura H, Hoshi K, Kato T, Ozaki S, Nishioka M, Nishioka K.: Clinical feature of fibromyalgia syndrome in Japan and novel strategy in the treatment by bioproduct (Neurotoropin).. 3rd World Congress of the Global Arthritis Research Network (GARN) Miyazaki, Japan (Summit Hall at Sheraton Resorts) 9/14-17, 2003
604. Masuko-Hongo K, Kato T, Nishioka K.: Immunoreaction-mediated pathway of cartilage degradation in osteoarthritis. Annual Euroean Congress of Rheumatology (EULAR) Lisbon, Portugal 6/18-21, 2003
605. Xiang Y, Sekine T, Nakamura H, Imajoh-Ohmi S, Fukuda H, Nishioka K, Kato T.: Proteomic surveillance of autoimmunity in osteoarthritis: identification of triosephosphate isomerase as an autoantigen in patients with osteoarthritis. Annual Euroean Congress of Rheumatology (EULAR) Lisbon, Portugal 6/18-21, 2003
606. Kato T, Dai SM, Matsui T, Suzuki-Kurokawa M, Ooka S, Nishioka K.: Autoantibodies (autoAbs) to receptor-activator of NF-kB (RANK). 第 47 回日本リウマチ学会総会 京王プラザホテル (東京) 4/24-26, 2003
607. 増子佳世、加藤智啓、中村洋、西岡久寿樹: 免疫学的機序を介する軟骨細胞の変性過程について. 第 47 回日本リウマチ学会総会 京王プラザホテル (東京) 4/24-26, 2003
608. 田中道明、中村洋、増子佳世、加藤智啓、西岡久寿樹: ヒト軟骨細胞に対するヒアルロン酸の異化抑制効果と分子量について. 第 47 回日本リウマチ学会総会 京王プラザホテル (東京) 4/24-26, 2003
609. 唐沢里江、関根太一、大岡正道、西村裕之、尾崎承一、西岡久寿樹、加藤智啓: 血管炎における抗内皮細胞抗体の対応抗原に関する検討. 第 47 回日本リウマチ学会総会 京王プラザホテル (東京) 4/24-26, 2003
610. 芝川温之、中村洋、袁国華、田中道明、加藤智啓、別府諸兄、青木治人、西岡久寿樹: 変形性関節症の病態形成におけるパンヌス様組織について. 第 47 回日本リウマチ学会総会 京王プラザホテル (東京) 4/24-26, 2003
611. Du H, Kato T, Xiang Y, Masuko K, Nakamura H, Chen SL, Nishioka K.: Detection of Autoantibodies to Cartilage Intermediate Layer Protein in Shanghai Knee Osteoarthritis Patients. 第 47 回日本リウマチ学会総会 京王プラザホテル (東京) 4/24-26, 2003
612. Xiang Y, Sekine T, Nakamura H, Nishioka K, Kato T.: Proteomic surveillance of autoantigen(autoAg): Identification of fibulin-4 as an autoAg in osteoarthritis. 第 47 回日本リウマチ学会総会 京王プラザホテル (東京) 4/24-26, 2003

613. Xiang Y, Sekine T, Nakamura H, Nishioka K, Kato T: Proteomic surveillance of autoantigen(autoAg): Identification of triose phosphate isomerase as an autoAg in osteoarthritis. 第47回日本リウマチ学会総会 京王プラザホテル (東京) 4/24-26, 2003
614. 関根太一、中村洋、西岡久寿樹、加藤智啓: 変性関節症患者軟骨細胞のプロテオーム変化に対するIL-1の影響の解析. 第47回日本リウマチ学会総会 京王プラザホテル (東京) 4/24-26, 2003
615. 中村洋、田中道明、増子佳世、加藤智啓、西岡久寿樹: T/C28a2 ヒト軟骨細胞株MMP-1発現に対するヒアルロン酸の効果. 第47回日本リウマチ学会総会 京王プラザホテル (東京) 4/24-26, 2003
616. 田中道明、中村洋、増子佳世、加藤智啓、西岡久寿樹: 軟骨細胞と自己末梢血T細胞の相互作用に対するヒアルロン酸の作用. 第47回日本リウマチ学会総会 京王プラザホテル (東京) 4/24-26, 2003
617. 黒川真奈絵、西岡久寿樹、加藤智啓: 骨髄移植後筋炎におけるT細胞クロナリティーの解析. 第47回日本リウマチ学会総会 京王プラザホテル (東京) 4/24-26, 2003
618. 大岡正道、松井利浩、西岡久寿樹、加藤智啓: 全身性自己免疫疾患患者におけるCDw150(SLAM)に対する自己抗体. 第47回日本リウマチ学会総会 京王プラザホテル (東京) 4/24-26, 2003
619. 中野弘雅、大岡正道、松田隆秀、関根太一、尾崎承一、西岡久寿樹、加藤智啓: ベーチェット病における自己抗体の検索: 抗cofilin抗体の同定. 第47回日本リウマチ学会総会 京王プラザホテル (東京) 4/24-26, 2003
620. 中村浩士、高田智子、三浦俊郎、加藤智啓、西岡久寿樹、松崎益徳: ウイルス性心筋炎再感染モデルにおける自己抗体の検討. 第47回日本リウマチ学会総会 京王プラザホテル (東京) 4/24-26, 2003
621. 加藤智啓: 変形性関節症における自己抗原の網羅的探索と解析. 第1回ヒトプロテオーム学会 つくば産業技術総合研究所共用講堂 2/13-14, 2003
622. 加藤智啓: プロテオームファクトリーからみた関節破壊の分子機構と標的分子. 厚生労働省厚生科学研究公開シンポジウム 全社協・灘尾ホール (東京) 1/23, 2003
623. 加藤智啓: 変形性関節症と自己免疫. ハイテク・リサーチ・センターフォーラム2002 聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター 1/21, 2003
624. 中村洋、加藤智啓、西岡久寿樹: 変形性関節症における軟骨細胞とT細胞との自己反応性. 第32回日本免疫学会総会 京王プラザホテル (東京) 12/4-6, 2002
625. Xiang Y, Sekine T, Nakamura H, Nishioka K, Kato T. Detection of triose phosphate isomerase (TPI) as a specific autoantigen in osteoarthritis. 第32回日本免疫学会総会 京王プラザホテル(東京) 12/4-6, 2002
626. 加藤智啓、黒川真奈絵、関根太一、松井利浩、西岡久寿樹: RANK (receptor activator of NF- κ B)に対する自己抗体. 第32回日本免疫学会総会 京王プラザホテル (東京) 12/4-6, 2002
627. Kurokaw M, Matsui T, Sekine T, Oooka S, Yamamoto K, Nishioka K, Kato T. Expression of MHC class I molecules together with antigenic peptides on filamentous phages. 第32回日本免疫学会総会 京王プラザホテル (東京) 12/4-6, 2002
628. Masuko-Hongo K, Kato T, Nakamura H, Nishioka K. Immunological aspects of cartilage degradation in Osteoarthritis. 10th Asia Pacific League of Associations for Rheumatology Congress (APLAR) Queen Sirikit National Convention Center, Bangkok, Thailand 12/1-6, 2002
629. Du Hui, Chen Shunle, Bao Chunde, Nakamura H, Kato T, Nishioka K.: Community-based epidemiological study on knee osteoarthritis in Huangpu district, Shanghai, China. 10th Asia Pacific League of Associations for Rheumatology Congress (APLAR) Queen Sirikit National Convention Center, Bangkok, Thailand 12/1-6, 2002
630. Nakamura H, Tanaka M, Shibakawa A, Kato T, Nishioka K. Matrix metalloprotease 1,3,13 nitric oxide and

- prostaglandin E2 production from OA chondrocytes and synoviocytes stimulated by interleukin-1 β suppressive effects of glucosamine-. 7th World Congress of the OsteoArthritis Research Society International (OARSI) Sydney (Australia) 9/25-28, 2002
631. Tanaka M, Nakamura H, Shibakawa A, Masuko K, Kato T, Nishioka K. T cell-chondrocyte interaction in osteoarthritis. 7th World Congress of the OsteoArthritis Research Society International(OARSI) Sydney (Australia) 9/25-28, 2002
632. Tanaka M, Nakamura H, Masuko-Hongo K, Kato T, Nishioka K. Effects of high molecular weight hyaluronan on MMP-1 and RANTES production from chondrocytes. American College of Rheumatology, 66th Annual Scientific Meeting New Orleans, Louisiana 10/24-29, 2002
633. Zhou J, Nakamura H, Yuan GH, Masuko-Hongo K, Kato T, Nishioka K. Regulatory effects of CC chemokines on the expression of TNF and TGF receptors in chondrocytes. American College of Rheumatology, 66th Annual Scientific Meeting New Orleans, Louisiana 10/24-29, 2002
634. Kojime K, Kurokawa MS, Tanimoto K, Kojima Y, Yoshino T, Harada M, Tanimoto M, Nishioka K, Kato T. Clonal expansion of limited T cell clonotypes in affected muscle from a patient with post-transplant polymyositis. American College of Rheumatology, 66th Annual Scientific Meeting New Orleans, Louisiana 10/24-29, 2002
635. Kurokawa MS, Matsui T, Sekine T, Ohoka S, Yamamoto K, Nishioka K, Kato T. Expression of MHC class I molecules together with antigenic peptides on filamentous phages. American College of Rheumatology, 66th Annual Scientific Meeting New Orleans, Louisiana 10/24-29, 2002
636. Shibakawa A, Nakamura H, Tanaka M, Yuan G, Kato T, Nishioka K. Pannus-like soft tissue on the surface of osteoarthritic cartilage and its function. American College of Rheumatology, 66th Annual Scientific Meeting New Orleans, Louisiana 10/24-29, 2002
637. Tanaka M, Nakamura H, Shibakawa A, Masuko-Hongo K, Kato T, Nishioka K. Direct contact of chondrocytes and autologous T cells enhances chemokines and MMPs productions in osteoarthritis. American College of Rheumatology, 66th Annual Scientific Meeting New Orleans, Louisiana 10/24-29, 2002
638. 加藤智啓、中村洋、西岡久寿樹: 変形性関節症における免疫学的機序. 第46回日本リウマチ学会 神戸国際会議場 (神戸) 4/22-24, 2002
639. 関根太一、加藤智啓、西岡久寿樹: HTLV-I 陰性慢性関節リウマチ患者における HTLV-I tax に対する抗体の検出. 第46回日本リウマチ学会 神戸国際会議場 (神戸) 4/22-24, 2002
640. Xiang Y, Sekine T, Nakamura H, Nishioka K, Kato T. Comprehensive analysis of autoantigens related to chondrocytes in patients with osteoarthritis and rheumatoid arthritis. 第46回日本リウマチ学会 神戸国際会議場 (神戸) 4/22-24, 2002
641. Wei J, Yuan GH, Nakamura H, Masuko-Hongo K, Kato T, Nishioka K.: Detection of soluble CC chemokine receptor CCR5 in serum from patients with rheumatoid arthritis. 第46回日本リウマチ学会 神戸国際会議場 (神戸) 4/22-24, 2002
642. Yao Z, Kato T, Kurokawa M, Masuko-Hongo K, Tsuruha J, Nakamura H, Nishioka K.: Mapping of arthritogenic epitopes of cartilage intermediate layer protein. 第46回日本リウマチ学会 神戸国際会議場 (神戸) 4/22-24, 2002
643. 中村洋、増子佳世、加藤智啓、西岡久寿樹: ヒト軟骨細胞の PGE2, NO, MMP, TIMP 産生に対するグルコサミンの効果. 第46回日本リウマチ学会 神戸国際会議場 (神戸) 4/22-24, 2002
644. 田中道明、中村洋、増子佳世、加藤智啓、西岡久寿樹: ヒト軟骨細胞の MMP-I および RANTES 産生に及ぼすヒアルロン酸の作用. 第46回日本リウマチ学会 神戸国際会議場 (神戸) 4/22-24, 2002
645. 田中道明、中村洋、芝川温之、増子佳世、加藤智啓、西岡久寿樹: 変形性関節症患者の軟骨細胞と T 細胞の反応.

- 第46回日本リウマチ学会 神戸国際会議場(神戸) 4/22-24, 2002
646. Yuan GH, Masuko-Hongo K, Nakamura H, Shibakawa A, Kato T, Nishioka K.: Identification and function of novel cells: chondrofibroblasts in patients with osteoarthritis. 第46回日本リウマチ学会 神戸国際会議場(神戸) 4/22-24, 2002
647. 芝川温之、中村洋、Yuan GH、田中道明、加藤智啓、西岡久寿樹: 変形性関節症軟骨における Pannus 様組織に関する組織学的検討. 第46回日本リウマチ学会 神戸国際会議場(神戸) 4/22-24, 2002
648. 黒川真奈絵、西岡久寿樹、加藤智啓: 全身性強皮症患者の末梢血および皮膚浸潤 T 細胞クロナリティーの解析. 第46回日本リウマチ学会 神戸国際会議場(神戸) 4/22-24, 2002
649. 中村浩士、高田智子、加藤智啓、西岡久寿樹、松崎益徳: ウイルス性心筋炎再感染モデルにおける抗心筋抗体の検討. 第46回日本リウマチ学会 神戸国際会議場(神戸) 4/22-24, 2002
650. 大岡正道、松井利浩、西岡久寿樹、加藤智啓: 全身性自己免疫疾患における LDL-receptor related protein 2 に対する自己抗体の検討. 第46回日本リウマチ学会 神戸国際会議場(神戸) 4/22-24, 2002
651. 荻谷卓昭、林和彦、与那嶺京子、田口泰之、石塚文平、増子佳世、加藤智啓: T cell clone level の変化からみた習慣流産患者夫リンパ球免疫療法の効果. 第54回日本産科婦人科学会総会 ホテルメリディアン(東京) 4/6-9, 2002
652. 田中道明、中村洋、増子-本郷佳世、加藤智啓、西岡久寿樹: 軟骨細胞の MMP-1 および RANTES 産生に対する高分子ヒアルロン酸の作用検討. 第1回 Biomatrix Forum 研究発表会 パレスホテル(東京) 1/26, 2002
653. 加藤智啓: 変形性関節症の免疫学的機序. ハイテク・リサーチ・センターフォーラム 2002 聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター 1/22, 2002
654. 土屋尚之: 顕微鏡的多発血管炎の疾患感受性遺伝子解析. 第48回日本リウマチ学会総会・学術集会 抄録集 p105. 2004年4月15日~17日、岡山。
655. 江原幸和、土屋尚之、櫻井大祐、山口晃弘、松多邦雄、徳永勝士: ヒト follistatin-related protein (FRP) 遺伝子多型の関節リウマチとの関連の検討. 第48回日本リウマチ学会総会・学術集会 抄録集 p152. 2004年4月15日~17日、岡山。
656. 人見祐基、土屋尚之、川崎綾、深沢徹、松多邦雄、Betty P. Tsao, 橋本博史、徳永勝士: ヒト CD72 遺伝子の多型解析と、全身性エリテマトーデスおよび関節リウマチとの関連の検討. 第48回日本リウマチ学会総会・学術集会 抄録集 p175. 2004年4月15日~17日、岡山。
657. 黒木喜美子、土屋尚之、松多邦雄、深沢徹、十字猛夫、橋本博史、徳永勝士: 白血球免疫グロブリン様受容体 LILRA1(LIR6) 遺伝子多型と日本人 SLE との関連. 第48回日本リウマチ学会総会・学術集会 抄録集 p175. 2004年4月15日~17日、岡山。
658. 川崎綾、土屋尚之、深沢徹、松多邦雄、橋本博史、徳永勝士: APRIL 遺伝子多型と関節リウマチ、全身性エリテマトーデスとの関連の検討. 第48回日本リウマチ学会総会・学術集会 抄録集 p181. 2004年4月15日~17日、岡山。
659. 申栄吉、櫻井大祐、土屋尚之、川崎綾、小端哲二、徳永勝士: ヒト臍帯静脈由来血管内皮細胞における BLYS(BAFF) 発現. 第48回日本リウマチ学会総会・学術集会 抄録集 p284. 2004年4月15日~17日、岡山。
660. 櫻井大祐、土屋尚之、山口晃弘、小端哲二、徳永勝士: VEGF 誘導性血管内皮細胞活性化および血管新生誘導における ID 遺伝子の役割. 第48回日本リウマチ学会総会・学術集会 抄録集 p299. 2004年4月15日~17日、岡山。
661. 人見祐基、土屋尚之、川崎綾、京極千恵子、大橋順、鈴木毅、深沢徹、Sasitorn Bejrachandra, Dasnayanee Chandanayingyong, Puan Suthipinittharm, Betty P. Tsao, 橋本博史、本田善一郎、徳永勝士: SLE 感受性におけるヒト CD72 遺伝子多型およびヒト FcγR2B 遺伝子多型の遺伝子間相互作用. 日本人類遺伝学会第49回大会抄録集 p107 (2004年10月12日~15日)。

662. 土屋尚之、黒木喜美子、村上善則、藤本学、Thomas F. Tedder、徳永勝士、竹原和彦、佐藤伸一：CD19 の機能的多型と全身性強皮症との関連。日本人類遺伝学会第49回大会抄録集 p148 (2004年10月12日～15日)。
663. Tsuchiya N, Kuroki K, Murakami Y, Fujimoto M, Tedder TF, Tokunaga K, Takehara K, Sato S: Association of functional *CD19* promoter polymorphism with susceptibility to systemic sclerosis. *Arthritis Rheum* 50(Suppl.): S125, 2004.
664. Kawasaki A, Tsuchiya N, Fukazawa T, Matsuta K, Murakami Y, Hashimoto H, Tokunaga K. APRIL (TNFSF13) polymorphisms: in systemic lupus erythematosus: Independent confirmation of association with susceptibility and new association with clinical characteristics. *Arthritis Rheum* 50(Suppl.): S120, 2004. *Arthritis Rheum* 50(Suppl.): S203, 2004.
665. Hitomi Y, Tsuchiya N, Kawasaki A, Kyogoku C, Ohashi J, Suzuki T, Fukazawa T, Bejrachandra S, Chandanayingyong D, Suthipinittharm P, Tsao BP, Hashimoto H, Honda Z, Tokunaga K: Epistatic interaction between *CD72* and *FCGR2B* polymorphisms in conferring susceptibility to human systemic lupus erythematosus (SLE). *Arthritis Rheum* 50(Suppl.): S120, 2004.
666. Kusaoi M, Fukazawa T, Hirashima M, Morita Y, Morita T, Tsuchiya N, Tokunaga K, Inoko H, Hashimoto H: Genomic screening with high density microsatellite markers for systemic lupus erythematosus on chromosome 1. *Arthritis Rheum* 50(Suppl.): S121, 2004.
667. 申栄吉、土屋尚之、櫻井大祐、長谷英徳、津野寛和、高橋孝喜、小端哲二、徳永勝士 (2004) 血管内皮細胞および血管平滑筋細胞における BAFF(BLyS) 発現。第34回日本免疫学会 (学術集会記録 p162)
668. 黒木喜美子、土屋尚之、白石充典、ラズバラリンダ、山下由美、小池隆夫、神田大輔、徳永勝士、前仲勝実 (2004) 関節リウマチ(RA)関連 Leukocyte Immunoglobulin-like receptor (LIR) 1 ハプロタイプの構造・発現解析。第34回日本免疫学会 (学術集会記録 p162)
669. 川崎綾、土屋尚之、深沢徹、橋本博史、徳永勝士 (2004) APRIL(TNFSF13)遺伝子多型と SLE 発症および病態との関連の解析。第34回日本免疫学会 (学術集会記録 p279)
670. 人見祐基、土屋尚之、川崎綾、鈴木毅、深沢徹、Bejrachandra S, Chandanayingyong D, Suthipinittharm P, Tsao BP, 橋本博史、本田善一郎、徳永勝士 (2004) SLE 感受性におけるヒト *CD72* 遺伝子多型およびヒト *FCGR2B* 遺伝子多型の遺伝子間相互作用。第34回日本免疫学会 (学術集会記録 p279)
671. 土屋尚之、黒木喜美子、藤本学、Tedder TF, 徳永勝士、佐藤伸一 (2004) ヒト *CD19* 多型と強皮症との関連。第34回日本免疫学会 (学術集会記録 p284)
672. 宮下リサ、土屋尚之、屋部登志雄、小林茂人、橋本博史、尾崎承一、徳永勝士 (2004) KIR 遺伝子多型と顕微鏡的多発血管炎(MPA)との関連の検討。第34回日本免疫学会 (学術集会記録 p284)
673. 屋部登志雄、宮下リサ、八幡真人、八幡信代、Parham P, 土屋尚之、徳永勝士(2004) ヒト NK 細胞受容体 KIR, LIR 多型性と骨髄移植成績への影響。第34回日本免疫学会 (学術集会記録 p331)
674. 草生真規雄、深沢徹、平島美賀、守田優子、頭山尚子、土屋尚之、徳永勝士、猪子英俊、橋本博史(2004) 高密度のマイクロサテライトマーカーを用いた1番染色体における全身性エリテマトーデスの疾患感受性遺伝子の解析。第34回日本免疫学会 (学術集会記録 p256)
675. 黒木喜美子、白石充典、ラズバラリンダ、土屋尚之、徳永勝士、神田大輔、前仲勝実 (2004) 関節リウマチ (RA) 関連 Leukocyte Immunoglobulin-like Receptor (LIR) 1 ハプロタイプの構造・発現解析。第27回日本分子生物学会 (抄録集 p995, 3PB-407)
676. 徳永勝士、橋本博史、土屋尚之：膠原病感受性遺伝子の探索。第26回日本医学会総会。2003年4月、福岡。(要旨 p179)
677. Sakurai D, Yamaguchi A, Tsuchiya N, Tokunaga K. Induction of proliferation of

- activation of endothelial cells by overexpression of *ID3* gene. *リウマチ* 43:252, 2003.
678. Kuroki K, Tsuchiya N, Matsuta K, Fukazawa T, Hashimoto H, Tokunaga K. Association of Leukocyte Immunoglobulin-like Receptor 1 (LIR1, ILT2, LILRB1) polymorphism with susceptibility to RA and SLE in Japanese. *リウマチ* 43:254, 2003.
679. 京極千恵子、河野肇、土屋尚之、鈴木毅、山本一彦、徳永勝士、本田善一郎：SLEに関連するFcγRIIB多型のB細胞受容体シグナル抑制機能の検討。*リウマチ* 43:304, 2003.
680. 川崎綾、土屋尚之、松多邦雄、深沢徹、橋本博史、徳永勝士：BAFF-R、TACI遺伝子の多型解析とSLEおよびRAとの関連の検討。*リウマチ* 43:307, 2003.
681. 宮下リサ、土屋尚之、氷上光輝、黒木喜美子、徳永勝士：ヒトNKG2C遺伝子欠失の分子遺伝学的解析。*リウマチ* 43:319, 2003.
682. 櫻井大祐、土屋尚之、大槻祐頼、津野寛和、高橋孝喜、徳永勝士：血管内皮細胞活性化および血管新生誘導におけるId遺伝子の役割。第62回日本癌学会総会、2003年9月、名古屋。
683. 櫻井大祐、土屋尚之、山口晃弘、大槻祐頼、津野寛和、高橋孝喜、徳永勝士：Crucial role for Id in the induction of activation and angiogenic property of endothelial cells. 日本人類遺伝学会第48回大会抄録集 p118、2003年10月、長崎。
684. 人見祐基、土屋尚之、川崎綾、深沢徹、松多邦雄、Betty Tsao、橋本博史、徳永勝士：ヒトCD72遺伝子の多型解析と、全身性エリテマトーデスおよび関節リウマチとの関連の検討。日本人類遺伝学会第48回大会抄録集 p139、2003年10月、長崎。
685. 江原幸和、土屋尚之、櫻井大祐、山口晃弘、徳永勝士：ヒトfollistatin-related protein (FRP)遺伝子多型の関節リウマチとの関連の検討。日本人類遺伝学会第48回大会抄録集 p139、2003年10月、長崎。
686. 宮下リサ、土屋尚之、屋部登志雄、徳永勝士：関節リウマチにおけるKIR遺伝子プロファイルの解析。日本人類遺伝学会第48回大会抄録集 p139、2003年10月、長崎。
687. 黒木喜美子、土屋尚之、前仲勝実、Linda Rasubala、白石充典、山下由美、松多邦雄、深沢徹、神田大輔、小池隆夫、十字猛夫、橋本博史、徳永勝士：Leukocyte immunoglobulin-like receptor (LIR)遺伝子群多型と日本人RA、SLEとの関連。日本人類遺伝学会第48回大会抄録集 p140、2003年10月、長崎。
688. Kusaoi M, Fukazawa T, Hirashima M, Morita Y, Morita T, Okamoto K, Ikuta T, Tamiya G, Tsuchiya N, Tokunaga K, Inoko H, Hashimoto H. Genome-wide association study of systemic lupus erythematosus on chromosome 1. *Arthritis Rheum* 48 (Suppl); S226, 2003.
689. Kuroki K, Tsuchiya N, Maenaka K, Rasubala L, Shiroishi M, Yamashita Y, Matsuta K, Fukazawa T, Kohda D, Koike T, Juji T, Hashimoto H, Tokunaga K. Distinct associations of the leukocyte immunoglobulin-like receptor (*LIR*)1 and *LIR6* polymorphisms with susceptibility to rheumatoid arthritis (RA) and systemic lupus erythematosus (SLE). *Arthritis Rheum* 48 (Suppl); S197, 2003.
690. Chu ZT, Tsuchiya N, Kyogoku C, Qian YP, Xu SB, Mao CZ, Chu JY, Tokunaga K. Association of Fc gamma receptor IIb polymorphism with susceptibility to systemic lupus erythematosus in Chinese: a common susceptibility gene in the Asian populations? *Arthritis Rheum* 48 (Suppl); S380, 2003.
691. Kyogoku C, Tsuchiya N, Wu H, Tsao BP, Tokunaga K. Association of Fcγ receptor IIA, but not of IIB and IIIA, polymorphisms with systemic lupus erythematosus in Caucasians: a family-based association study. *Arthritis Rheum* 48 (Suppl); S380, 2003.
692. Sakurai D, Tsuchiya N, Yamaguchi A, Tsuno NH, Okaji Y, Tokunaga K, Takahashi K. Crucial role for Id in the induction of activation and angiogenic property of endothelial cells. *Arthritis Rheum* 48 (Suppl); S340, 2003.
693. Kawasaki A, Tsuchiya N, Fukazawa T, Matsuta K, Hase H, Kobata T, Hashimoto H, Tokunaga K. Association of *TACI*

- polymorphisms with systemic lupus erythematosus and rheumatoid arthritis. *Arthritis Rheum* 48 (Suppl); S383, 2003.
694. Miyashita R, Tsuchiya N, Hikami K, Kuroki K, Fukazawa T, Bijl M, Kallenberg CGM, Hashimoto H, Yabe T, Tokunaga K. Molecular genetic analyses of human *NKG2C* gene deletion. *Arthritis Rheum* 48 (Suppl); S473, 2003.
695. Kyogoku C, Kono H, Tsuchiya N, Suzuki T, Yamamoto K, Tokunaga K, Honda Z-I. SLE-associated polymorphism of *FcγRIIB* Ile232Thr affects localization at lipid rafts and attenuation of BCR signaling. *Arthritis Rheum* 48 (Suppl); S647, 2003.
696. 人見祐基, 土屋尚之, 川崎綾, 深沢徹, 松多邦雄, Betty Tsao, 橋本博史, 徳永勝士: ヒト *CD72* 遺伝子の多型解析と、全身性エリテマトーデスおよび関節リウマチとの関連の検討。日本免疫学会総会学術集会記録 33:196, 2003.
697. 川崎綾, 土屋尚之, 深沢徹, 松多邦雄, 長谷英徳, 小端哲二, 橋本博史, 徳永勝士: *TACI*, *APRIL* 遺伝子多型と RA および SLE 疾患感受性の関連。日本免疫学会総会学術集会記録 33:196, 2003.
698. 河野肇, 京極千恵子, 鈴木毅, 土屋尚之, 山本一彦, 徳永勝士, 本田善一郎: SLE に関連するヒト *FcγRIIB* 多型の脂質ラフト会合および B 細胞受容体信号伝達抑制への影響。日本免疫学会総会学術集会記録 33:197, 2003.
699. 宮下リサ, 土屋尚之, 松多邦雄, 屋部登志雄, 徳永勝士: 日本人関節リウマチと *KIR* 遺伝子多型との関連の検討。日本免疫学会総会学術集会記録 33:213, 2003.
700. Kuroki K, Tsuchiya N, Maenaka K, Rasubala L, Shiroishi M, Yamashita Y, Matsuta K, Fukazawa T, Kohda D, Koike T, Juji T, Hashimoto H, Tokunaga K. Distinct associations of the leukocyte immunoglobulin-like receptor (LIR)1 and *LIR6* polymorphisms with susceptibility to RA and SLE. 日本免疫学会総会学術集会記録 33:214, 2003.
701. 江原幸和, 土屋尚之, 櫻井大祐, 山口晃弘, 松多邦雄, 徳永勝士: ヒト follistatin-related protein (FRP) 遺伝子多型の関節リウマチとの関連の検討。日本免疫学会総会学術集会記録 33:214, 2003.
702. Sakurai D, Tsuchiya N, Yamaguchi A, Okaji Y, Tsuno NH, Takahashi K, Tokunaga K: Induction of proliferation and activation of endothelial cells by overexpression of *ID* gene. 日本免疫学会総会学術集会記録 33:224, 2003.
703. 申栄吉, 土屋尚之, 櫻井大祐, 川崎綾, 長谷英徳, 大槻祐頼, 津野寛和, 高橋孝喜, 小端哲二, 徳永勝士: ヒト臍帯静脈由来血管内皮細胞(HUVEC)における BLYS の発現: 日本免疫学会総会学術集会記録 33:319, 2003.
704. 土屋尚之, 京極千恵子, 黒木喜美子, 氷上光輝, 川崎綾, 深沢徹, 橋本博史, 徳永勝士: 全身性エリテマトーデス疾患感受性遺伝子の検討。リウマチ 42: 237, 2002.
705. 山口晃弘, 櫻井大祐, 土屋尚之, 徳永勝士, 山本一彦: 慢性関節リウマチ滑膜における特異的発現遺伝子の検討。リウマチ 42: 285, 2002.
706. 京極千恵子, 土屋尚之, 松多邦雄, 徳永勝士: 日本人慢性関節リウマチ患者における *Fcγ* 受容体遺伝子群多型の解析。リウマチ 42: 363, 2002.
707. 川崎綾, 土屋尚之, 深沢徹, 橋本博史, 徳永勝士: BLYS(TNFSF13B)の変異解析と SLE および RA との関連の検討。リウマチ 42: 367, 2002.
708. 黒木喜美子, 土屋尚之, 深沢徹, 橋本博史, 徳永勝士: ヒト *CD19* 遺伝子 3' 非翻訳領域内反復配列多型と日本人 SLE 感受性との関連。リウマチ 42: 367, 2002.
709. 櫻井大祐, 山口晃弘, 土屋尚之, 山本一彦, 徳永勝士: 慢性関節リウマチ患者滑膜における *FOSB* 遺伝子の発現。リウマチ 42: 424, 2002.
710. Sato M, Ohashi J, Tsuchiya N, Kashiwase K, Ishikawa Y, Arita H, Hanaoka K, Tokunaga K, Yabe T: HLA haplotype, A*3303-B*4403-DRB1*1302 associates with postherpetic neuralgia (PHN). *Tissue Antigens* 59 (Suppl): 67, 2002.
711. Wakui M, Yamaguchi A, Sakurai D, Ogasawara K, Yokochi T, Hatta-Ohashi Y, Karaki S, Kurata K, Nishida N, Suyama A, Ikeda Y, Tsuchiya N, Tokunaga K: Differential display method-based gene

- expression analysis and development of a novel oligonucleotide array assay in GvHR. *Tissue Antigens* 59 (Suppl): 141, 2002.
712. Sakurai D, Yamaguchi A, Tsuchiya N, Tsuno N, Okaji Y, Tokunaga K: Induction of proliferation and activation of human endothelial cells by overexpression of *ID* gene. *Arthritis Rheum* 46 (Suppl): S43, 2002.
713. Kyogoku C, Tsuchiya N, Matsuta K, Shibue T, Tokunaga K: Analyses on the association of Fcγ receptor family and *TNFR2 (TNFRSF1B)* polymorphisms with susceptibility to rheumatoid arthritis in Japanese. *Arthritis Rheum* 46 (Suppl): S98, 2002.
714. Tsuchiya N, Kobayashi S, Kawasaki A, Kyogoku C, Arimura Y, Yoshida M, Tokunaga K, Hashimoto H: Genetic background of Japanese patients with ANCA-associated vasculitis: Association of *HLA-DRB1*0901* with microscopic polyangiitis. *Arthritis Rheum* 46 (Suppl): S188, 2002.
715. Siriboonrit U, Kyogoku C, Sirikong M, Tsuchiya N, Bejrachandra S, Suthipinittharm P, Luangtrakool K, Srinak D, Thongpradit R, Chandanayingyong D, Tokunaga K. Association of Fcγ receptor IIB, IIIA and IIIB polymorphisms with susceptibility to systemic lupus erythematosus in Thais. *Arthritis Rheum* 46 (Suppl): S287, 2002.
716. Kawasaki A, Tsuchiya N, Fukazawa T, Hashimoto H, Tokunaga K: Studies on the association of human *BLYS (BAFF, TNFSF13B)* and *BAFF-R* polymorphisms with systemic lupus erythematosus and rheumatoid arthritis. *Arthritis Rheum* 46 (Suppl): S288, 2002.
717. Sakurai D, Yamaguchi A, Tsuchiya N, Tokunaga K: Elevated level of FosB mRNA and FosB/DeltaFosB ratio in the synovial tissues of rheumatoid arthritis. *Arthritis Rheum* 46 (Suppl): S502, 2002.
718. Kuroki K, Tsuchiya N, Matsuta K, Fukazawa T, Juji T, Hashimoto H, Tokunaga K: Association of Leukocyte Immunoglobulin-like Receptor 1 (LIR1, ILT2, LILRB1) polymorphism with susceptibility to rheumatoid arthritis in Japanese. *Arthritis Rheum* 46 (Suppl): S550, 2002.
719. Furuya T, Kotake S, Hakoda M, Ichikawa N, Nanke Y, Yamanishi Y, Kawasaki A, Tsuchiya N, Tokunaga K, Kamatani N: TNFA 5'-flanking region polymorphisms in 84 Japanese patients with myositis. *Arthritis Rheum* 46 (Suppl): S611, 2002.
720. 京極千恵子、土屋尚之、松多邦雄、渋谷司、徳永勝士：日本人関節リウマチ(RA)におけるFcγ受容体ファミリーおよび*TNFR2(TNFRSF1B)*遺伝子多型の関連研究。日本人類遺伝学会第47回大会(2002年11月13日-15日、名古屋)。P113, 2002.
721. 黒木喜美子、土屋尚之、松多邦雄、深沢徹、十字猛夫、橋本博史、徳永勝士：Leukocyte immunoglobulin-like receptor 1 (LIR1)多型と日本人関節リウマチ疾患感受性との関連。日本人類遺伝学会第47回大会(2002年11月13日-15日、名古屋)。P115, 2002.
722. 宮下リサ、土屋尚之、氷上光輝、黒木喜美子、屋部登志雄、徳永勝士：ヒトNKG2-C遺伝子欠失の分子遺伝学的解析。日本人類遺伝学会第47回大会(2002年11月13日-15日、名古屋)。P141, 2002.
723. 櫻井大祐、山口晃弘、大梶祐頼、津野寛和、土屋尚之、徳永勝士：ID遺伝子強制発現による血管内皮細胞の活性化および増殖誘導。日本人類遺伝学会第47回大会(2002年11月13日-15日、名古屋)。P172, 2002.
724. 宮下リサ、土屋尚之、黒木喜美子、屋部登志雄、徳永勝士：ヒトNKG2-C遺伝子欠失の分子遺伝学的解析。日本免疫学会総会学術集会記録32: 136, 2002.
725. 川崎綾、土屋尚之、松多邦雄、深沢徹、長谷英徳、小端哲二、橋本博史、徳永勝士：BLYS(TNFSF13B)、BAFF-Rの変異解析とSLEおよびRAとの関連の検討。日本免疫学会総会学術集会記録32: 210, 2002.
726. Kyogoku C, Tsuchiya N, Matsuta K, Shibue T, Tokunaga K: Analyses on the association of Fcγ receptor family and *TNFR2 (TNFRSF1B)* polymorphisms with susceptibility to rheumatoid arthritis in Japanese. 日本免疫学会総会学術集会記録32: 298, 2002.

727. Kuroki K, Tsuchiya N, Matsuta K, Fukazawa T, Juji T, Hashimoto H, Tokunaga K: Association of Leukocyte Immunoglobulin-like Receptor 1 (LIR1, ILT2, LILRB1) polymorphism with susceptibility to rheumatoid arthritis (RA) in Japanese. 日本免疫学会総会学術集会記録 32: 298, 2002.
728. Sakurai D, Yamaguchi A, Tsuchiya N, Tsuno N, Okaji Y, Tokunaga K: Induction of proliferation and activation of human endothelial cells by overexpression of *ID* gene. 日本免疫学会総会学術集会記録 32: 301, 2002.
729. 山口晃弘, 櫻井大祐, 土屋尚之, 田中良哉, 徳永勝士, 山本一彦: 関節リウマチにおける follistatin related protein の滑膜線維芽細胞増殖への関与。日本免疫学会総会学術集会記録 32: 298, 2002.

G. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得

1. 森下竜一 HGF 遺伝子からなる医薬特願平 7-245475
2. 森下竜一 血管新生療法用医薬組成物 特願 2000-192480
3. 加藤智啓 血管炎抗原ペプチドと血管炎診断方法
4. 土屋尚之 出願番号 2003-33108 ヒト血管内皮細胞の VEGF 誘導性活性化及び血管新生における Id の役割

(平成15年9月24日)

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

巻末解説資料

- ①MPO-ANCA 関連血管炎の EBM 確立
- ②ANCA 関連血管炎に対する免疫抑制療法施行下のカリニ肺炎の診断および治療の指標として抗βグルカン抗体は有用である。
- ③バージャー病重症虚血肢を対象とした遺伝子治療
- ④FDG-PET を用いた新しい高安動脈炎 (TA) の診断法の開発
- ⑤血管炎アトラス
- ⑥血管炎症例の網羅的遺伝子発現解析
- ⑦抗内皮細胞の対応抗原の同定に関する研究
- ⑧ゲノミクスを用いた血管炎の病因・病態の研究および血管炎感受性遺伝子の探索
- ⑨HTLV-I env-pX 遺伝子導入ラットにおける壊死性血管炎発症機序の解明
- ⑩膠原病関連組換え近交系マウス MXH/1pr を用いた解析
- ⑪血管炎誘発初期のイベント解析

MPO-ANCA関連血管炎のEBM確立

- ❖ 重症度別標準的治療プロトコールを作成
 - 最重症型：ステロイド+IVCY+血漿交換
 - 重症型：ステロイド+IVCY
 - 軽症型：ステロイド（+免疫抑制薬）
 - 評価法(BVAS, VDI, SF-36)を統一
 - 寛解・再燃などのエンドポイントを定義
 - トランスクリプトーム解析法を確立
- ❖ 多施設共同前向きコホート調査を開始
 - 各施設倫理委員会の承認
- ❖ 全国規模に拡大(3班合同前向き調査)

この前向き試験から得られる成果として以下のことが挙げられる

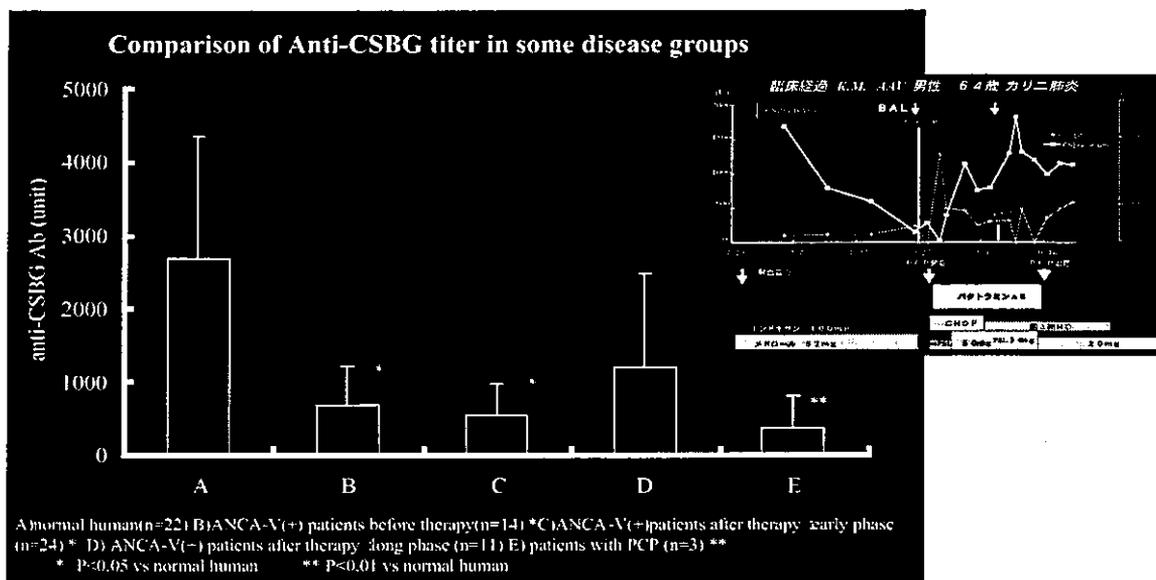
- 有効性と安全性を前向きに調査し、RCTの重要資料となる。
- 疾患特異的・病勢依存的に発現する遺伝子を同定できる。
- MPO-ANCA関連血管炎に適した評価法を開発できる。
- 施設間の考え方の相違を解消しコンセンサスを形成できる。
- 腎生検組織所見から予後因子を解析できる。
- 治療に伴う合併症とその対策を検討できる。
- 新しい治療法を検証するRCTの対照にできる。

また、今後の展開としては、

- 標準的治療に無効/再燃例を対象にRituximab, Enbrelなどによる実験的治療（パイロット試験）を開始する。
- その結果に基づいて、標準的治療プロトコールを対照としたランダム化比較対照試験を行い、質の高いエビデンスを確立する。
- 以上により、世界的にも未確立なMPO-ANCA関連血管炎に対する治療のEBMを確立していく。

②

ANCA関連血管炎に対する免疫抑制療法施行下のカリニ肺炎の診断および治療の指標として抗βグルカン抗体は有用である



AAV感染症死亡のリスク因子の一つとして、免疫抑制療法中のカリニ肺炎の早期診断が必要である。我々は可溶化したカンジダ細胞壁β-Dグルカン(BG)を抗原とした抗体(抗CSBG抗体)の測定系をELISAにより樹立し、AAVのカリニ肺炎の予知および宿主の免疫能の指標としての臨床的意義について検討した。健常人では平均2677Uと高かった。発症未治療活動期は平均691Uと低く、免疫抑制療法後は平均547Uと有意に低下した

($P<0.01$)。抗BG抗体を経時的に測定するとAAV寛解例は上昇するのに比較し、PCP併発時にはBGの上昇に加え抗BG抗体は 369 ± 441 Uと有意に低下し($P<0.01$)、抗菌療法によりPCPが回復すると抗BG抗体は速やかに上昇した。PCP2例のBAL中の抗BG抗体を発症時より経時的に測定すると血清中と鏡面的に推移した。

AAVに対する免疫療法中PCPの早期診断、治療経過の指標として抗BG抗体は極めて有用で、BGはγグロブリン療法及び透析治療の透析膜使用で偽陽性を呈するが、抗BG抗体はそれらの影響を受けなかった。

バージャー病重症虚血肢を対象とした遺伝子治療

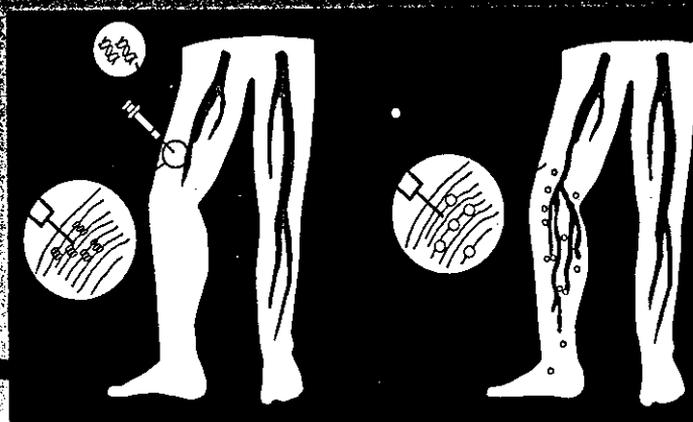
AMG0001のピュルガー病を対象とした一般臨床試験

厚労省の認可があり、治験開始

班員、研究協力者で治験の進め方、治験プロトコール確定

虚血肢の客観的評価法の検討：従来に虚血肢評価法に加え、RIによる組織血流測定法、TcPO₂による評価法を検討した

治験進捗状況：リストアップ19例、治験開始7、脱落4、進行中3



目的：バージャー病重症虚血肢におけるHGF遺伝子プラスミドを用いた遺伝子治療の確立

成果：

病態および虚血評価法の客観的評価基準確立：従来に虚血肢評価法に加え、RIによる組織血流測定法、TcPO₂による評価法

治験の実施：リストアップ19例、治験開始7、脱落4、進行中3

治験進捗状況：リストアップ19例、治験開始7、脱落4、進行中3

従来の治療法により改善しない難治性潰瘍に対する臨床治験であり、安全性を確認しながら、有効性を確立する必要がある